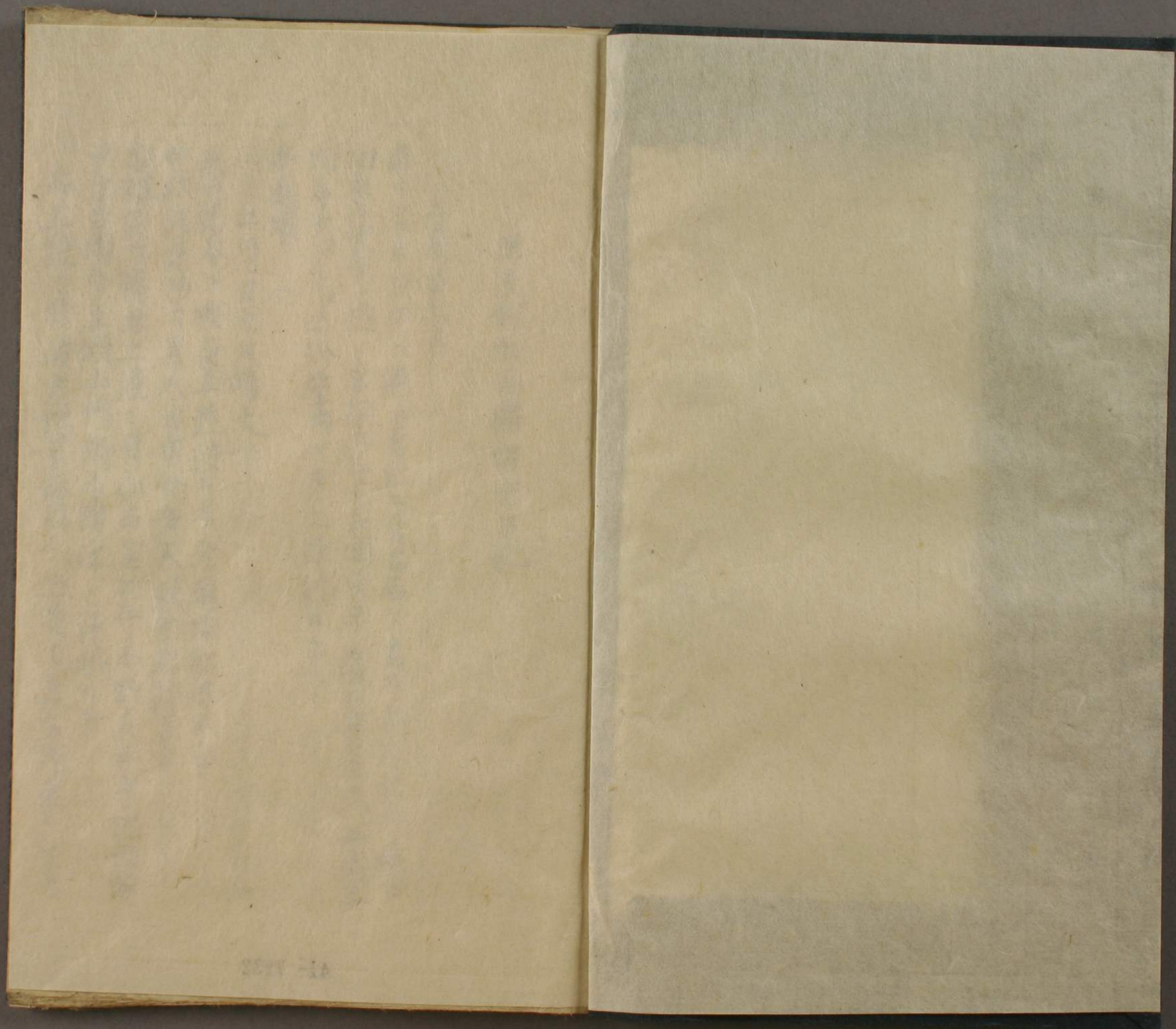


亞米利加國滯留中日記

洋学文庫
文庫 8
C 436





2007-10

亞米利加國滯留中日記

二月廿六日

一 尚サンフランシスコ港に着船ニ付右届ケ其外尚不役人の撮合
向為以使者ト佐々倉桐太郎吉園勇平濱口貞右等ノ中濱系
次等交フロツク人 案内ニテ上陸被ル
今夜晴

二月廿七日晴天

一 為以使者ト昨夜上陸被ル者今朝及船被ル
一 以船為見物ト異人オ男女多入教堂被ル
一 本村公英勝君上陸ニ付山本金次等小野友三等肥田濱
三寺吉園勇平牧山信郷等附添ト在候
右 上陸ニ付波戸場ニ福込人 出迎ト上下車ニ乗セ

馬ニ引くも積宿は幸内被程と馳走見出し由

一当港は塵芥捨る事

一砲放被り事

右禁製ニる若し右法度を背く者も必料死せり事

二月十八日晴天

一當国蒸気仕掛ケ測量船乗組船將并士官共三人當由船に罷裁り事

亞米休國回部留中日誌

一右差出り食物悉く量取り被度思ひた敷多く指出し一品をト着喰了るを其ニ引替へ他の品を指来り且湯入り招被居り食し亦多量なりバ不喰た他の品を指来り故さる寸因り此湯中り西より居りしを味を喰ふ事不能又是れを一喰ふ品れをる事不能故は前略島の外ニも食下有りし丸多田りし且ハ喰へあとし室まで日記は海々略ス

一右國面の三ツ道具ニテハ甚喰ひぬく右はニ持ツモノヲ在りニ指チ又丸はニモツものを右はニもち且ハハニ指チ喰ふべき物を指しニ是れ招きて喰ふ故同食被居り異人た大ニ笑フ此の事にてハ食更ノ節ハ宿との吏婦其外の者も旅人と一所ニ同食ス
一旅人用更有る宿の召仕を呼ばニ其人来て隣りの部屋

杯ニ不乗是ハ致多の部屋ニ故一五ニ致と部屋悉く書
付テニお成此れ見世の者ばし又うけあり部屋ニて呼
ぶ時ハ各致をくニテ糸を引く時ハ何處の部屋と書
ニ分る

右お殿土官以上は内陸被樂師斗りも居残り樂人ハ内
手七立の者ヨリ中出ハニモ当以船士友ハ方ハ私大ヨリ
以地走ニ音楽一曲被度者中出ハ甘包ニ急音樂為
待り申

一山水更添、助平外一人途中ヨリ大痛ニテ未使方も見定又
かこく依り同所後ハハ掛合階ト上為療養ト當地病院にお
送り以外ニ者病人二人付添をスモ此二人も者病人ト申
ゆるも病院ハ在城しハ禁制ト申同院も諸病人療治致
ハ所故更ニ致、醫師も勿論帯粒ハ十分病人の大小役
ニ世法を致ハ在途世免又お弟居りニ付右二人も病人ト
積リニるお付至ハ

右病人お送りハ弟付添人
吉岡 一 赤松 山長井 医師 木村

三月二日曇天

一午後ヨリ南風吹出し雨降ル

一今日も大統領ヨリ馳参差出し以て舟船將兵士友に直上陸お成り候所役人より中核に付左に面して上陸後より交より揚子も我友文友丸諸役人出立車を用意候至り

本村 勝 麟太郎
佐倉 倉桐太郎
濱口 眞太郎
伴 袿太郎
中濱 宗俊
本村 宗俊

ノ外ニ供ハ有

水夫並本村公衆

一彼戸場トスルプを漕付上陸候処「アレシテント」当所カ一ノを始

十二人ノ取込当地を十二ニ割り付其ツニ級人一人ツ其外我友此者

モ何レモ金ノエホレット「付凡右出立」居り車も朱塗リニ中モ

受ナル樽控を降メ又キタル「テレンプ」ニテ張リ浩メ馬車具大根

金具ヲ取リ付タル物ヲ用意被至本村公始水夫ニ至ル迄諸

役人モ活を被右ノ車ニ載セ一車ニ役人も一人ツ、其ノ此

当地ノ役所ニ案内被役所ノ前ニテ一統車ヨリ下りり也

其前ニキ下四方斗リニ調練場枯

一 船出建ノ時ノ如ク波戸場迄送ル
一夜ニ入而止ミ空ヲ晴レル

一 今日ノ上陸ハ折悪交往返共凡雨ニテ傘ヲ吹キ折ラレ且又当
國ハ家内住所ハ義ナルコレンゾ其外毛織ノ物ナトニテ敷キツ
メタル席上ヲ踏ニテ出入スル故其所ハ足駄ニテハ甚不都合
又草履履取ノ者ハ多シカモ足駄モ所持致居ル者モ所持
不致者モ有之義事差支ル得共幸ヒ車ニ載リ以テ又ツ
又レ迄ニハ不成土足迄ニモ不成異人共ハ多ク平常ノ服ニテ
傘ヲ用ユル人ハマレナリ衣服冠物等羅紗故力更ラニ不濡

三月三日晴天

一 七時頃雨降り直止ミ晴天

一 水走原之ゆ病院ニテ養生不相叶死去被ハニ付吉田根津
兩人右取計トモテ病院ハ罷裁ス

一 此船由修覆トシテ船造場へ運裁シハニ付八時迄抜錨出航

のり

一 右望和亞人モ横濱ヨリ乗船訪来リル者ノ外カニ左ノ面

々々船をモカアモハ居残ル

一 側量方士官一人

一 フロックス各人

是「フロックス」ノ親類ノ由ニテ紙ヲ高フ大町人ニ此者ハ年々
箱館杯ハモ高船ヲ度々差出ヌ由此者甚真寶者ニテ此
船ヨリ上陸之度コト自分ノ繫勤ヲ捨テ置キ一統ノ世話
木被吳レ役所向キ其外金銀座物テ役人ニ関係被ハ迄
此者ニ相頼リハ差支被ハ

一 蘭語ヲ致ル者一人町人

一 当船造場着船前当海軍所ノ「コムドル」海軍所頭役オヲ祝シ
大砲十三放榮ミル

一午後一時半当造船場「マアイランド」地名着船之り
右サンフランシスコヨリ是迄港内海上八里計リ里日本

一当所「コムドウル」来船之り

一右コムドール改陸之節勝君中濱同道上陸之り
一コムドール七活彼旅翁相貸し呉ル

三月四日晴天

一山本肥田小村中濱木村今日ヨリ旅館へ上陸之り
一山船為川修復今九時迄「トロヘ」場修復に繋り入ル

一今日ヨリ山船船中人中合追々上陸旅館へ罷抵ル
一但之水夫ハ未船住居

一山船中修復中当番三人之士官二人之他一人十時ヨリ十時迄

在番之り

一当所ニテハ往來ニテ煙草ヲ吸フ莫禁制之由是ハ辺地ニ火柴
庫有之ハ故ナルヘシ

三月五日晴天

一終日在番之り
三月六日晴天

一当所「カビタン」館其外役ニ誘ニテ木村公勝君并小村赤
松中濱為徒歩ト向地ニ渡リ三里余先キ「バ子シヤ」ト云フ
村迄罷抵之由リ掛テ向地「ウエレ」村「カビタン」宅に立寄り
馳走相成ル由右迄往共「ウエレ」村ヨリ電車ノ由

- 四ハ 海軍所頭 コムトル各
- 一才二ノ頭 カピタン各 マキツガル各
- 一僧一人
- 六ハ 海軍兵糧預リ頭 エセソイヤ各 一圖書キ「モリス」各
- 一製艇局引頭 ケレツフアラウド各
- 一艇造方見習 ウラレス各
- 七ハ 海軍所附属ノ機械頭 タニルトノ各
- 八九ハ 假リ役所 ベントウ各 タニルトノ 杯出勤
- 一右ノ外左ノ役々、罷在候得共住家ヲ不知ラ最モ「ワフト」シキツ
- 一左ニ同居スル者モアリ又向地ウエレヲ村ニ住居ノ者モ
- 有ル役々ノ家ハ皆ナ大統領ヨリ造立シテアトウ由シ
- 一コウクロン各 屋大ニ惣頭
- 一レノント各 左官小頭

一 海軍所頭
 一 才二ノ頭
 一 僧一人
 一 海軍兵糧預リ頭
 一 製艇局引頭
 一 艇造方見習
 一 海軍所附属ノ機械頭
 一 假リ役所
 一 右ノ外左ノ役々
 一 左ニ同居スル者
 一 有ル役々ノ家
 一 コウクロン
 一 レノント

一 ベンドウ ヲ夫者 是ハ 機械 其外 家作等迄

一 機械所小頭 ト子ヲ欲

一 多シ コシヨ 大工小頭

一 ベエテ テレヘンテドク 船修 小頭 覆場

一 ウエレヲ住居

一 ウエレヲ住居

一 職人支配頭 此人毎朝向地ヨリ諸職人ヲ引キ連レ

一 末ル ウエレヲ住居

一 マイハタ 榎茹キチ 小頭

一 メ

一 右ノ内重モ立ハ役人ハ馬ニ足位ツカヒ置リ

一 田ノ土藏ハ非常之葎軍艦ニ積入ル兵糧酒肉ノ塩漬砂糖蜜其外漬物類武器類船具類水夫ノ踏帆木綿砒

一 石小刀紙油細類等ニ至ル迄惣テ不足ノ品一種モコ

一 レナク十分ニ貯置ク

一 右ツリヤ「モウス」ノ役所アリ

一 回ハ塗り繪具類硝子類貯アリ又水夫共細具等ノ製作繕ヲスル所アリ下々モ同類是レ有外ニ材木杯貯

有ル

一 右ヲヒミル 役所有リ

一 回ハ二楷ハ大工職仕事場下々ハ板類貯アル

一 右ブリテン「ドウシ」ノ役所

一 目ハ二楷ニテ帆ヲ縫フ又船造ノ番引所是レ有リ下

一 右ハ諸軍艦ノ損材等貯置キ端舟ノ修覆ヲ修居ル

一 右ケレフホウドウヲレスベエテ二楷下々ハコウクロン

一 右ケツウエル其外書役勘定役ノ役所アリ

諸職人朝出勤致ス片此役所ニテ「ケツウエル」諸職人ノ
名前ヲ呼アケル其後銘ノ持場ニ行ク

一因ハ 鉄ヲ製スル所 七日目 七日目ニ 僧出勤説法場 成信丸

水支旅宿

一因ハ上リ場此所「バツテ」并ニ水支始終備ヘ付置キ役ニ并ニ
妻子ニ至ル處向地ニ渡ル時送り送ヲナス

一因ハ船ノ柱又ハ大ナル物ヲ高キニ引キ揚ケル片用ユル具
一因ハ半鐘

一因ハ丸キ杖ニテ是ハ「サンフランシスコ」ヨリ海底ヲ通り南
地ヘテリカラー「ポ」ヲ仕掛ケタル針金此木ノ上ヨリ土藏
ノ二階ニ通り有ル

一因ハ燈籠是ニ毎夜火ヲトホス
一因ハ「ガラス」トホス燈籠是ハ未ダ本末セツ其場所ハ

有之ナリ

一「ガラス」ト云ハ土中ニカマトラツキ其中カニ石炭ヲ入レ
是ヲ燒キ其石炭ノ烟リ水中ヲクベリ是ヲカヨハセル
所ハ土中ニ管ヲ埋メ此中カヲ右ノ烟リ通り先キ
ノ出タル所ニ火ヲ付ル片ハ其烟リ油火ヨリヨクトホル

一 此叙修覆中日の出勤被其換子ヲ見らば物休ノ指國ヨスル
 者ハ「コムトール」カヒタン諸職人頭右三負職人ニ自文ニ指
 國を被ま之命ス右モ職人ノ内ニ小頭一人ツ、付添居リ
 油断ナク目ヲ配リ扱ケ目ナキ扱ニ氣ヲ付ル併ニ其職
 事ノ頭モ折ト見廻リ自分配下ノ者ニハ指國被ル其
 多クハ役所ニ居リ吏ト入用ノ取渡ニ方ホ瓦調ヲ扱子
 ナリ始終附添居ルハ「カヒタン」一人其外職人頭小頭之
 一 濱口拙者兩人モ右モ修覆扱リニテ当所扱ト相交ハリ
 日勤被吏ト入用ス又モ取括場所等有リ此等モ並ニ
 「カヒタン」ニヤスル然る時ハ「カヒタン」渡シ物ナリ取括
 場ナリ並クニ其小頭ニ命スルハ誠ニ速カナリ
 一家毎ニ門ト口ニ燈籠一ツ、毎夜付ルニ「コムトール」計ハ
 燈籠ニツナリ是ハ役所ヨリ付ル由ニ且又「コムトール」六

一 此叙修覆中日の出勤被其換子ヲ見らば物休ノ指國ヨスル
 者ハ「コムトール」カヒタン諸職人頭右三負職人ニ自文ニ指
 國を被ま之命ス右モ職人ノ内ニ小頭一人ツ、付添居リ
 油断ナク目ヲ配リ扱ケ目ナキ扱ニ氣ヲ付ル併ニ其職
 事ノ頭モ折ト見廻リ自分配下ノ者ニハ指國被ル其
 多クハ役所ニ居リ吏ト入用ノ取渡ニ方ホ瓦調ヲ扱子
 ナリ始終附添居ルハ「カヒタン」一人其外職人頭小頭之
 一 濱口拙者兩人モ右モ修覆扱リニテ当所扱ト相交ハリ
 日勤被吏ト入用ス又モ取括場所等有リ此等モ並ニ
 「カヒタン」ニヤスル然る時ハ「カヒタン」渡シ物ナリ取括
 場ナリ並クニ其小頭ニ命スルハ誠ニ速カナリ
 一家毎ニ門ト口ニ燈籠一ツ、毎夜付ルニ「コムトール」計ハ
 燈籠ニツナリ是ハ役所ヨリ付ル由ニ且又「コムトール」六

家作モ他ノ家作ト異ナリ

三月七日天气

一水夫并ニ火焚ノ者旅宿お渡ししニ付吉田中濱抄者右見
分として存稿ス

右旅宿ニ搭一ト間ニ有十間四面臺所土間同凡

一此船当番ニ在出ル

一此船ロリセキルル 船底 取付方お渡り

一三四里先キ「ベ子」ヤ村ニ住居被居ル蘭人是モ家業医師ニ由

此者素蘭人故日本人トハ筆流モ勿偏少ニ位ニ在モお出

事ニ及致ニ天禮ノ小児ヲ引連レ日ニ此船ニ在り

今日モ馬ニ車ヲ引カセ在り 木村宗俊牧山修郷右取人ニ

自外宅に在りて在り 中由牧山修郷中出為何て在り

中由りて一因評議被り此右モ是ニ在り 車ヲ引カセ在り

一此船今目モ三度目ニ付其時にお引りりるも折角ニ信實ヲ不索

扱ニお考たり今日も此ハ在りしりて一因評議被り上船將止同

右モ医道ニ尋問ニ牧山木村宗俊ニ依リ倉相大尉附添トシテ在り

一今夜四ツ時頃依リ倉外ベ子「ヤ村」ヨリ車ニ乗リ送リ世に在り

一夜中ヨリ雨降ル

三月八日

一今朝雨天 寒暖計六十度 十時前ヨリ雨止ム

一小永井「ムハ」本村宗俊由用向有之運送蒸気船に等組

サンフランシスコに在り 右ニ付右る附添ト伴 鉄太尉在り

一船底に修覆出表ニ付今日此船水却ニ致由船石垣際ニ引キ付ル

右ニ付勝君佐ニ倉小船に出張し

一今夜雨降ル

三月九日

一曇天朽々雨又晴ル
 一濱口奥右方の風邪ニ付回入替り水船南寄ニ出ル
 一測量船カビタンブロック横濱出帆以來船中ニ勿論当国着船
 總テ眞実ニセ話談吳一ト通り用事お世進々「ワシントン府に
 残留リハニ付右カビタン其外横濱ヨリ繋組来リハるゝ為立振津
 々少弛走シ放トルニ付右料理仕出方為「付中濱美ニ一ト
 地ニ一移越ハニ付為附添地者並松岡同通シ
 一外國を以テ航其外繋組居ル亞國軍艦ホウハタン艦今十時
 サシフランシスコ港に著船之由当所通行シ蒸氣船ヨリ相知
 レル旨ハ船繋組居ル亞人共ヨリ申セ
 右ホウハタン船当地にお廻リハ旅是右亞人乃中出ルニ付旅宿に
 為お知ラハ旅宿ニ搭ヨリモ右ホウハタン相見ハル
 ニル
 二ル
 二ル

一ホウハタン着船ニ付木村公為ハ使者ト佐々倉相太序右
 亞船江羅裁シル
 一ホウハタン当地着船ニ付右為祝砲ト当所備付ワフト
 シキツブニ於テ大砲十七放発ノ事
 右為返発ト三時前^{ハツ}ホウハタン船ニテ大砲同放發
 其節同船大橋ノ頂上ニ日ノ丸ノ御国旗引上ケ置ク是
 ハ日本使節在船之印ニテ素ヨリノ事ニハ右祝砲相終
 リ直カニ音楽相始マル
 一三時十^{ハツ}分右ホウハタン当川中程に卸錨ノ事
 一右ホウハタン船乗組之御國使奉行衆相祝シ当威臨丸
 中船ニテモ祝砲放發可致之処中船中終覆中ニ付右ハ
 当所ワフトシキツブニテ祝砲十七放發致吳ハ其節中
 船ヨリ日ノ丸中旗持參右ワフトシキツブノ前橋ノ上ニ引

上ケ置リ具節又ホウハタン 船ニテ音楽相始ム
一 木村公由船へ由出張三時二十四分ホウハタン 船ニ於テ
返砲十七放 癸木村公ヲ祝ス 三時四十分佐々倉桐太郎
歸船ノ事

一 四時五十分時ツ 左之面々由船に來ル
ホウハタン船ニ 駕組ノ者外國奉行庇附

成瀬善四郎

日高桂五郎

定役

吉田作兵衛

以善傳及

辻 芳五郎

定役格通詞

名村五八郎

一 本船掛リ居リハ 場所ハホウハタン 船引キ寄セ当由船ト
掛入り替リルニ付当由船ヲ後方ニ引キ下ケル

一 四時半木村公勝君小野中濱吉岡ホウハタン 船に罷越
ス

一 外國方ノ者も旅宿に上陸同居相成ルテハ如何之旨未
村公ヨリ成瀬へ由送リ有之ルニ付五時前當方旅宿為
見分ト成瀬至外之者當旅宿に拜越ス

右ホウハタン 船正月十八日品川沖出帆同二十二日横
濱出帆途中大時化ニ逢ヒ石炭ツカイキリ 其外船損所
出来無餘哉サントエトラント江廻リ二月十四日同所着
船同廿七日同所出帆三月九日当地着船
三月十日雨天折々晴ル

一 本船當番交代取越之
一 外國奉行并月付元上陸當方旅宿ニテ休息ノ事
一 小栗茂森同返當旅宿へ一泊之事

一 外を召し外サンフランシスコ為見物ト同所ハ明日出
積リし処「サンフランシスコ」ヨリ蒸氣船二艘仕立右の儀ハ
同和フレシテント上并ニ軍勢指揮役其外蒸氣軍艦將官士
官海軍陸軍士官等々人教今夕刻当旅宿ハ罷敷ス
一 ホウハタン船將長ニ士官今夜当旅宿ハ罷敷ス
一 ホウハタン船將ヨリ馳走トシテ右船乗組 音楽師相送り
当旅宿門口ニ於テ音楽有之由

右樂人ハ酒見キス
三月十一日晴天

一 八時ハ船乗組ニテ昨日定ニ既報ハ蒸氣船ハ本村公外
を召し戻ル目付具外支配向望船サンフランシスコ江出航
ニ付右船当岸出船之節ワフトシキツプニテ祝砲十七放
発別續キホウハタンニテ祝砲放発後ハ是初ノ一発ニテ

右砲口三四間先キ陸地通流ル南ハコムトールヲ折倒シ依
之ホーハタン船ニテハ祝砲お止メル
右コムトール大怪我被患者ヨリ血流シ余モ六ヶ安
位ニ相見え由
一 カビタンフロック明後日当地発足ロシントン府江既報ル
ニ付るも永々セ法ニおぬり付為離杯ト今日日同人の馳
走し積る兼る向地ハ中付至ハ秒鐘今日持参申之
配り支度未済ハ委前又コムトール怪我之儀ニ付今日
馳走お延ス
一 午後雨降り又止又雨
三月十二日 風雨
一 本船乗組ニ出勤
一 昨日コムトール怪我被患者「テリガラープ」ヲ以テ「サンフラ

シスコに港進おれ由本村公ニモ同所ニ於テ「ブロックス」ヨリ内々以義氣お本依し昨日当不ヲ出船後ハ二度目の蒸氣船に以義組今三時頃半出船故以附居し赤松太三希並家来一人水夫一人死傷り吉岡勇平ハ彼ノ地にお残り善る病院に居せし重ハ富藏死云被ハニ付け者取扱被居し

一昨日お延し置キル「ブロックス」カヒタン「離杯の爰今二時半ヨリ旅箱ニ於テ馳走先出しハ泊共コムドル怪我し爰又之お悪爰今日も「メンタフ」是ハ日曜日ニテ外國徳テ七日目七ニ當リハ故内ニテ馳走先出し逝所し諸人子不來り

右ハ横濱ヨリ義組来りハ要人を水夫ニ至日迄酒肴料理お下ニあめし

三月十三日

一昨夜ヨリ雨降り今午後雨止し曇天又晴ル
一カヒタン「ブロックス」爰今目を当地出船ワシントン府に死傷りハニ付るも右カヒタン為送りト勝君依之倉松園三人ノ者昨日本村公以送りおぬり蒸氣船に義組「サンフランシスコ」に往敬ス此希ホウハタン船ヨリモ外西を以航せ外支配向し者も同船被彼の地に出船あり
右カヒタン「今九時頃」右蒸氣船に義組当地引掛あり「コレタカア」並勘定役医師も当川通行に運送蒸氣船に乗組午後十二時過當所引掛に積り外カ水夫左を從又横濱に往被爰由ニ付重て「ブロックス」に掛合並南に船を抱入る

- 亜水吏シメ丹人
- コール人
- モレシ人
- シヤンパー人
- ゾルカ人

一昨日サンフランシスコ江の越え相成り外西を以流蒸氣
軍艦に繋組今又別高取江の攻りおぬれ至希去國常平
日引しる

三月十四日

一朝晴又雨又晴
一用向多し向地は蒸散ス

三月十五日

一風雨 折々雨止ム

一中濱美二舟美急舟馬しりニ付「サンフランシスコ」江出向キ
あ中旨同所ニ居残りハ勝君ヨリ「テリガラアプ」ヲ以テ当不
れ中濱ニ付右中濱同人附流少壯友あり西人運送蒸
氣船に繋組今九ツ時過南地出船彼ノ地へ死散しる
三月十二日

一昨夜風雨

一雨天折々雨止ム

一以船高島ニ死出ル

一亜国軍艦蒸氣仕掛ケホウハタン 船者所ニ於テ損取取
ヒ具外石炭積込ニ等相渡し今十二時過南地出船其
ワフトシキツプニ於テ前橋ノ頂上ニ日ノ九脚旗ヲ引揚
ケ祝砲十五枚放発之度

右出船ノ時同船又陸地ニテ亜人共「ウーラウーラ」ト三度
発聲ス是ハ船々別レノ時外國ニテハヤスコトバニ

ホウハタン船ハ船々出途中ニテ前橋ノ頂上ニ日ノ九ノ
脚印ヲ引アケル船將ハ「サンフランシスコ」江罷越し居リ
在船母し故放船將ノ印ハ不引揚只平常ノ印ノ
引アケル

三月廿日晴天

三月廿一日晴天

一 内船当番出勤

一 寒暖計 六十度強

一 今日前後ノ掃ヲ抜ク

三月廿二日晴天

一 内船当番交代改番

三月廿三日晴天

一 濱口奥右少ツ并拙者兩人ニテ五人共ニ中程ニ出船出

修名渡り取扱者今日速ニお成り

右ニ付五人今日より日々出船ノ出勤し

一 先日抱入ル五人ノ内機械師一人出糞被り

一 横濱滞船中カヒタンブロッグ呂老同派お残り此度ホウハタン

船一 惣組 船中 五人 水夫 一人 抱入 お成り

三月廿四日晴天

一 サンプランシスコ江用向有之左ノ面ニ運送蒸気船へ惣組

今午後四時当派船出船後ノ地ニ残被り

吉岡山本小松牧山 船後 秀海 本村 公家 一人 水夫

一人 火焚 一人

右ニ尚不取人ニ負同船被り是日彼ノ地ニ残被りニ付

船中 眞寔ニ七活被り

夜八時 サンプランシスコ 着船 揚り場ヨリ 先前通り 車ニ乗

り 旅宿を死被り

右船賃車賃共是迄モ 同船 日本ノ分ハ 一銭モ 不請取

旅宿ニテモ 同船ノ由

右ニ尚不取人ニ負同船被り是日彼ノ地ニ残被りニ付

内大統領ヨリ馳走見出しはるも多し多分引掛し帝諸
勅定あり後以て候。

サンフランシスコ滞留中

三月廿五日晴天

一市中に花出後日買物

三月廿六日天氣

一病院に罹れし全快し水夫共百世に流しゆを以て墓所
に葬れし

一墓所ハ当地ヨリ我ニ里半計り離レ山中ニ大ナル墓所
有レ是ハ当地惣体し墓所ニテ大統領ヨリ右地不アタヒ
至キ由

一彼ノ國ノ凡ニテ墓所ハ勿論役不向キ在外格ニ住家ノ周

リニ草ノ繁茂シタルヲ更ラニムシラス只草花ヲ造リテ
場亦ハカリ草ヲカルの也

一右場亦ヨリ陶リし節連馬車ヲ引キ来ル事多ク是ヲ二
十四五車迄算スレテ其余ハ數ヘズ是ヲ凡ルニ此等
送式ニテ前後ハ送りし男女共ナル車ニ坐リ死人ハ寐
棺ニテキミ塗り箱ニ入レ中程ニ車ニ坐セ行クは此
ハ馬ヲ進マセルニ徐ニニシテ少シモハヤメズ

一墓参後返共病院に案内者一人死哉ス

一七ツ時(午後)始り

三月廿七日天氣

一市中見物ハ夜分控歩スル片ハ西人共ニ見物サレズ是
宜安我ガ玉ト遠ヒ障子モ何レモ硝子ニテ見世ヲ明ラカニ見
通し且又諸家共「ガスタン」ニテ家内白昼ノ如ク照ラス

一山本金次郎同道ニテ車ニ乗り病院に往來し兼多病を患ふ病人
杖ヲニ付一統諸取リ死傷ノ器此の時大蒸氣船ニ乗組一
回七時氣此の時バ子シヤ村の上陸回所ヨリ又車ニ乗り「空
レ」村迄往來此の支ヨリ渡川渡夜九時氣此の時旅舎へ着
こる

右病院も四指作りたる家作も大きく二指……縁
……を移し諸物も一面ニ唐菜ノ模範彫り付アリ
總テ板ノ下も目ノ何處も掃除せらるるきんかやを致病
人ノ多ク又清潔ニ為ス此所ニ當時病人四百十人も
死在り由何れも他諸高船ノ水夫多ク病も大作唐
毒ノ者多き由且又病院も諸人ノ出入り處も入
口ニ番人有し用ひこる此船も役所ノ切手無し
ゆるぎ出入り不あ由水夫だけ不引拂にて医師ニ暇

乞波ノ下医師別れを惜し汗流す由

三月廿八日

一山船高五ニ死あり

三月廿九日 天氣

一在船

一濱口肥田根津岡田小永井今午後四時運送蒸氣船へ乗
組ガシフランセスコへ死救ヌ

三月晦日

一昨夜より雨今朝七時雨止ニ天氣

閏三月朔日曇天又晴ル

一出船へ死あり

閏三月二日晴天

一寒暖計 五十三度

一濱口肥田其外サンフランシスコヨリ戻ル

一六時迄諸職人退散ニ付泊宿被り

一内船ハ在ル

閏三月三日晴天日曜日

一内船南番ニ在ル

一勝君少壯伴赤松小永井今四時蒸氣仕掛ケ運送船ハ乗組サンフランシスコへ戻ル

閏三月五日晴天

一在船

一午後七時迄返鼓

閏三月六日晴天

一内船ハ出張

一今日ノ暑サハ 本国七月頃ノ暑サニテ 日中暑強ク午後寒

暖計七十六度併ニ朝夕ハ甚冷氣ニテ夜露多シ

一勝君外サンフランシスコヨリ戻リ「ベ子」ヤ村に上陸
同所ヨリ車ニ乗り向地に在ルニ夜九時迄返鼓

閏三月七日晴天

一内船ハ在ル

一今朝サンフランシスコヨリ男女小児ニ在ル大蒸氣船ハ
乗組多人救当地に在ル其外「ベ子」ヤ村ウエレヤ村分り
男女小供多勢在ル南海軍所四印ノ土藏ノ二櫓ニ在
る男女小供共交り笛太鼓ラッパ等々を吹き立入り聲あり
立聲ノ大勢ニ在踊舞ス其岸土藏ノ二櫓を隔あし籠ニ在強
リ浪四面ニ在 日ノ丸ノ所國旗を夜ニ垂下し籠を上層
ニ張り其賑ヤウある祭礼ニ在 其声牙ささくみ字ナシ

是を尋ねると右に諸方の金銭家群集し困窮人を救
えりし令に評議者尚他にも日本人滞留故郷を兼放不
二来り由

右男女大衣服受を辱し其中チニも男ハ金メツキとし
タル毛の如き細き針金を織りし物にて種々の飾を衣
類付白

一今夜カビタシ方ハ離杯又私招木村公勝君以外付伴小姓
肥田山本松尾拙者夜八時六時ヨリ既撤しゆ不吉不吉友
以上夫婦小供ニおる迄ハ既し居り男女折交り音物を合
セ踊舞し又唄ヲうたヒ賑々甚弛之終て後其味ノ酒肴菓
子雪氷リ等見おしゆ夫婦集り踊舞ニテ弛之スルを尚も
之風ニテ極上ニ弛之由既ニ外を以テ既カシフランシス已
ニ行キし時ハ統領始め諸役人夫婦踊舞して弛之しスル

由

閏三月八日曇天又晴り

一此船ハ出勤

閏三月九日晴天

一此船ハ終覆出来ニ付今日ヨリ追こみ船ハ引揚りしゆ

閏三月十日晴天

一ソウヤ宅に在り弛之ニお成り

閏三月十一日曇天

一此船為見物トヨムト此「カビタン」等ノ妻子来ル

一咸臨丸ハ此当國渡海大洋ニ於テ度々大時化ニ逢ル船
損所多出来依り物出し爺見多し此ハ政府ヨリ当所
海軍ニ於テ修繕被具ハニ付るを諸役諸職人日勤目々
筋骨を勞しお毎午内ニ「カビタン」を諸職人ニ指圖を

致四船乗組人も氣の不付少損し揚不返自身足出し雪隠ニおん通研見支無し候真意ニセ候所此の由修不度業強の十二の南地出船ト申すのにお成候し為離杯ト当諸役人今日お招き馳走まじりし

右別杯ニ付コムトウル妻子「カビタン」并ウエシヲ村カビタン夫婦モ外諸役人男女来り

田三月十二日晴天

一寒暖計 六十一度

一コムトウル方ハ為離杯ト召招木村公勝君と伴し内中會士官為惣名代ト死被ス

一當マヤアイラント出船ニ付サンフランシスコ迄為見送ト左ノ亜人乗船ノ事

一カビタン マキツガル 一ソウヤ

一ケツウエル 是ハ五六丈ノ娘ヲ連ル

一ペンタフシタ 一ペントウ 一ベエテ

右ノ外料理人幼人等私を右役ニル食支ニ成出ル為メ召連り

一今十時啣當川発着出此節諸役人并妻子ニ至ル迄見送り白布ノ巾拭ヲ子ニ持是ヲ高ク揚ケ振リ別シヲ惜ム

一インテペン子ンス船當ニ於テ祝砲十三放発依之當方ニテモ右同救請発ス

一途中亜国軍艦スクウ子ル船ニ颯リ合依之當方ニ亜人在船ヲ知ラセル為メ前檣ノ頂上ニ亜国ノ旗ヲ引アケル

一二時半サンフランシスコ港迄船卸錨

一二時半過カビタン 其外之亜人下船ノ上サンフランシスコ江罷越ス其節吉園中瀆モ上陸病院ノ切子為貫請ケト

役正ノ拜被ス

一四時過料理人下船帰郷ス 一西風強

一今夜十時比ヨリ当港滞泊諸高船テ頻リニ花火ヲ揚種
々ノ火ノ玉五色ノ光リヲ為シ海上ニ散飛シ又大砲放
発シ音楽ヲスル船モ有リ港中日中ノ如ク其賑カナル
一夥ニ付海陸ニ於テ祝ヒヨシ大砲ハ昼ヨリ折々放
発夜ニ入閑暇ナク発砲ス

閏三月十三日曇天

一寒暖計 六十二度 一風 西

一市用向有之佐々倉濱口吉岡岡田上陸

一九時過雨降出ス

一当瓜莖氣仕掛テ軍艦乗組カピタンニ負来船

一夕刻雨止ム

一夜曇天

一水夫七人火焚一人都合八人大病ニ付右療養方病院ニ
相頼ニ当不レ相残シ全快方方便船有レハ荷送り方届
呉ハ相頼ニ回不レ見レ遣ス

閏三月十四日雨天

一勝君小野病院ニ罷被ス

一市用向兼上陸被ル 一午後ヨリ晴天

閏三月十五日

一今朝折々雨又晴レ又曇ル

一当所統領先軍務ノ指揮役来船外ニ下官一人召連ル

一カピタン先ニ町人共二負来船此カピタン何カカピタンナ
ルヤラス

一ソウヤ先ブロックス来船 一今夜晴レ又二時ヨリ雨

閏三月十六日晴天

一寒暖計 五十八度

お、雨降ル

一為買物上陸ノ事

一当国軍艦コルヘツト造リ「サイエン」艦今日当港に入船ニ付
大旗ニ 海国旗引アケ祝砲十三砲発射ハニ付小艇ニ
於テモ亜国ノ旗ヲ前掲ニ引揚大砲十一放発ス
右軍艦カヒタシ来船

閏三月十七日晴天

一亜国軍船サイエン艦組カヒタシ当小艇へ既報ハニ付此
方ヨリモ勝君兵ニ拙者右軍船へ既報ハニ付「シキツペ」
水夫笛ヲ吹キ「バル」艦ノ内左右ニ若水夫三人ツ、
立並ビ船將モ平服當番士官ハ礼を忌シ右西人出定ヒ
バクホール左板上ノ方ニモ「マリニール」兵十六人小銃ヲ以

テ「フレセン」テール小銃ヲ以テヲ為シ大砲方士官并下等士官
モ礼服ヲ着シ甲板ニ立テ下知ヲ為ス

右軍艦大砲十八挺備水夫百十八人等リ由

一勝君小野肥田吉岡根津中濱亜国軍船並氣仕掛ケノ測
量船へ罷致ス

閏三月十八日晴天

一病院ハ免老シ並ハ病人ノ者病人トシモ吉松並係ニ事
右西人モ病院ニ相残シ並ニ事

一用向有シ上陸致ル事
閏三月十九日晴天

當番順 佐々倉 赤松 濱口 松岡 鈴彦
伴 小舟 根津

一弥今日ハ当國出帆帰朝致ハニ付見送リトシテ亜人ブロ

クハ同入召仕二人乗船内一人ハ直ニ陸外ニセリジアン
上小銃方 一人水先キ二人乗船ノ事

右水先キ賃ドル百枚

一九時半五ツ 当港出航

一当国軍艦大砲六挺備ノ刃ク子ル船ニ於テ祝砲十四放
發ス

一同蒸氣仕掛ケノ測量船ニテ国旗ヲ三度上下ス此船ニ
テモ同以同救上下ス

右船ニ於テモ祝砲放發可被ノ処小船ニテ殊ニ測量船故大
砲數放發シハ船時計ニ障ル故略シテ大砲一發放
發ス右テドメイトルクルウ時ハ測量スルニ大ナルアマキヲ
生ズルタメニ

一大統領ヲ祝シ且又右スクー子ル船ノ請ケ砲ヲ兼大砲二

十一放發ス

若シ右スクー子ル船ノ祝砲ヲ別ニ当方ニ於テ請ケ砲
被ス片ハ九發ニテ宜キ旨セリジアン上申聞ケル右
兼帶祝砲モ同人ニ問合セノ上放發ス

一港中ノ砲臺ニ於テ祝砲二十一放發ス

右臺場ノ前ヲ颯リ通ル箭所国旗三度上下ス臺場ニ
テモ同以ノ事

一十一時二分港ロ沖ニ於テ見送りノ亞人其外下船相
別レハ事

一右滞留中当国ノ松子其外心得ニナルベキ見聞記又ハ
機械等總テ細密ニ圖取リ或ハ書留メ等被度存念ナレ
共所船修覆掛リニ相成リ日々所船ハ出勤又ハ自由ニ
他行モナラス若シ外出スル片ハ三四五人位宛他出ス

ル故我一人足ヲ留メテ自由ニ國取書留等スルヲ不能
右ニテ寸間コレナリ甚略記ニテ誤事多カルヘシ併シ
友人ノ日記ハ委シカルベケレ氏其人ニヨリ又ハ目ノ
付ケドコロ心ノ用ヒ方又タトヘバ市ニ於テ物ヲ求ル
ニ同物ヲ一ドルニテ求メタル人モアリ半ドルニテ求
メタル者モアル是ヲ一ドルニテ求メタル人ハ當國ハ
凡多宜シカラズ甚高ウリスルナツト云フ半ドルニテ
求メタル人ハ甚々下直ト云ヒ更ラニ一振ナラズ先ッ
大見世ニテ買ヒ物ヲスル代是ヲアタヒ何程ニマケル
杯ト云フ侍ハ答モセズ引キコマス又柳原ヤウノ見世
ナゾニテ一トルノ物ヲ半ドルニ付ル代直クニマケル
モアル又同物ヲ此國ノ人ノ買ヲ見ルニ我等ト同シア
タヒニテ求ムル者アリコトニ或曰此國ノ人好ム

日本品ヲ船中諸職人來ル処ニ二三日置クニ更ニゾク
セズ惣テ右等ノ次カニテ其人ノ話シ又ハ書キ留メ
等同ジカラズ

日本名... 諸... 未... 二... 日... 更...

